

平成21年度

学校自己評価表(最終評価)

学校運営計画						
学校運営方針		1 単位修得の支援体制の整備と具体化 基礎学力の定着、履修率・修得率の向上、定通併修制度の充実 2 豊かな心を育む教育の充実と具体化 自律性の育成と規律の維持、教育相談の充実、人権・同和教育の実践 3 キャリア教育の充実と具体化 社会人として身に付けておかねばならない諸能力の育成				
昨年度の成果と課題		21年度の重点目標		具体的目標		
・丁寧な学習指導や生徒指導の実施は一定の成果を上げたが、基本的な生活習慣の確立などは努力の継続が必要である。また、多様な生徒への対応について工夫・改善していかなければならない。 ・定通チャレンジ事業を核に生徒の基礎学力定着や学習意欲向上に取り組んだ。今後、外部との連携深めより活動の工夫を図りたい。 ・教育相談についての職員研修により生徒理解の方法の広がり得た。この成果を生かし、さらなる充実を目指したい。 ・キャリアの形成について、体系的な指導として体験学習などの組織的活動を確立しなければならない。		・キャリア形成に必要な意欲、態度、能力を育てる。 ・進路希望を達成できるように、体系的なキャリア育成プランを策定する。 地域の特色を生かした活動を行い、生徒の学習意欲を喚起し、体験活動等を通して生徒の自尊感情や自己肯定感を高める工夫する。 (定通チャレンジ事業2年目) ・基本的な生活習慣の確立を目指し、生徒と教員間の信頼関係作りと問題行動の防止のために生徒指導係と各年次との連絡を密にする。 ・生徒会・クラスの諸活動を通じて学校生活を豊かにする ・関係諸機関との連携を通して安全教育に配慮する。 ・多様な生徒を理解し支援するために全職員が教育相談に関する知識と理解を持ち実践するように努める。 ・特別支援が必要な生徒の指導の充実を図る。基本的な生活習慣を身につけさせる。 ・人権、同和教育を推進する。 (人権、同和教育指定事業2年目)		・企業見学や職場体験等の機会を設け、社会人として必要な諸能力を育成する。 ・キャリアガイダンス部が中核となり、進路希望達成のための体系的キャリア育成プランを策定する。 ・学校設定科目で外部講師による授業を行い、生徒の学習への興味・関心を高める。 ・関連機関と連携する就業体験などにより、生徒が主体的な活動を行うよう工夫する。 ・基礎学力定着や基本的な生活習慣確立のため、主体的学習を支援する学校体制確立を図る。 ・校外の巡視や立番のなかで生徒への声かけをし、きめ細やかな指導を行う。 ・全校集会やHR指導、文書等を通じて注意喚起と情報提供を行い、事件事故の未然防止に努める ・挨拶の励行や身だしなみを正し、規律ある明るい学校生活を築く。 ・クラブ活動や学校行事を活性化させる ・車、バイク通学者への交通安全指導 ・教育相談係と「単位制高校活性化相談員」を中心に適切な助言や職員研修計画を進める。 ・特別支援教育委員会が中核となり、特別支援が必要な生徒の支援について、関係諸機関と連携を図る。 ・人権、同和教育の計画を推進し、生徒が人権を理解し、実践できる心を育てる		
評価項目	具体的目標	具体的方策		B評価基準		評価
生徒理解	生徒理解を深めるための相談活動の充実	・相談室と保健室との連携によるカンファレンスの充実 ・「通信」の発行 ・相談係職員の研修		・原則週に1回打ち合わせを持つ ・年間3回発行する ・年間1～2回の研修を受講する。		B B
	・教職員研修の実施 ・生徒理解向上のための資料提供	・教職員研修の実施 ・生徒理解向上のための資料提供		・外部機関と連携し、年2回以上の研修会を行う ・関係図書の購入、他の情報を適宜周知する		A A
	特別支援教育の研究	・委員会の定期開催 ・事例検討会の実施 ・授業の工夫 ・就職支援		・事例検討会を含めて毎月1回実施する ・各教科より具体的事例を収集する ・キャリアガイダンス部と連携し、個別の生徒の支援を図る		B B B
生徒指導	挨拶の励行や身だしなみを正し、規律ある明るい学校生活を築く	生徒と教員間の信頼関係作りと問題行動の防止を目的とし、生徒指導係と各年次との連絡を密に取り、校外の巡視や立ち番を行う。その際に生徒に声をかけ、様子を観察し、きめ細やかな指導とケアを行う。また、全校集会やHR指導、文書等を通じて注意喚起と情報提供を行い、事件事故の未然防止に努める。規範意識の向上と事件事故の未然防止を目的とし、「MyLife」を発行し、タイムリーな話題提供をする。		問題行動による指導対象生徒延べ人数を昨年度の約1割減の80人未満にする。 内容を吟味したものを月1回発行する。		C B
	車、バイク、自転車通学者への交通安全指導	バイク・自動車通学者を対象とした実技講習会を年2回実施する。また、当日欠席者には後日補講を行い指導を徹底する。		講習会と補講を合わせた出席率を80%以上にする。		B B
		交通ルールやマナーと本校の規則を守らせるために、係りの指導体制を整え、登下校時と昼休みの立ち番、駐輪場の見回りをを行う。		係職員の業務への従事率を80%以上にする。		B

生徒会	生徒会行事や部活動の積極的参加を促し学校生活を活性化させる	生徒会執行部がリーダーシップを発揮し、自ら生徒会行事を企画し運営する。	生徒会行事において1つ以上新企画を実施出来たらB評価	B	B	B
		部活動や専門委員会の活動を活性化し、校外の大会や発表会への参加や、生徒会行事での発表の機会をもつ。	部活動や委員会の半数以上が何らかの発表の機会をもてたらB評価	C		
学習指導	「わかりやすい」「身近な」教材を工夫し、年間指導内容を蓄積する。 意欲を喚起する評価内容の工夫	シラバスをもとに、わかりやすい補助教材や体験的学習の工夫を進め、年間指導計画の中に位置づけをする。また、各教科で評価方法の工夫を行う。	各期末に実施するアンケートで、生徒の65%が興味関心を持ち授業に取り組んでいる。	B	B	B
		授業時間の確保に努め、基礎学力の定着を図る。	自習率2%以下。	B		
キャリアガイダンス部	生徒の進路意識の啓発  生徒の適性に応じた進路選択の支援	進路ガイダンス、講演会、インターンシップ等の実施や進路だよりの発行を通じ進路意識を啓発する。	キャリア教育のプログラムを基に計画の90%以上の実施	A	A	B
		3・4年次部及びハローワーク等との連携による個別指導を通じ、進路相談の充実を図る。	卒業生の進路決定率65%以上	B		
		特別支援を必要とする生徒に対して、外部支援機関との連携強化を図り、進路実現を目指す。	対象者の50%以上の進路決定	B		
教育環境	心身の健康のための支援と安全な教育環境の提供  情報教育支援と図書、視聴覚器材の利用の推進。	継続的支援が必要な保健室来室者への個別対応を充実させる。 校内清掃の徹底に努め、施設・設備の瑕疵がないように対応する。	月1回、支援内容の検討を行う。 年3回の安全点検及び日常点検の実施	B B	B	B
		PCや視聴覚教材の定期的点検・整備とHPの管理等による情報教育の支援と情報公開。 授業での利用も含めた生徒の図書室利用の推進。長期休業前の図書貸出の推進。	月1回のHPの点検と更新。 年3回以上の図書館だよりの発行	A B		
		保護者がPTA活動に興味・関心を持ち、行事や活動に参加しやすい環境をつくる。	行事・活動の案内の返答率が70%以上となる。 各行事の参加者が昨年度より10%以上増加する。	B C		
人権・同和教育	肯定的自己理解と自己有用感の獲得。  多様な他者との適切なコミュニケーション能力育成  人権を理解する心の育成。	講演会を実施して、自己理解を深める。	半数以上の生徒が、自己有用感を獲得できる。	B	B	B
		クラスや校内で、多様な他者との関わりが適切に行われるための基本的知識を身につけさせる。	LHRで人権教育を実践する。	B		
		差別の実態を学び、差別を許さない心を育成する。	60%以上の生徒が差別の実態を知ることができる。	B		
1年次	主体的に学校生活に臨み、積極的に諸活動に参加させる。  多くの保護者に学校の諸活動に参加してもらう。	普段から各生徒と挨拶や面談を通じてコミュニケーションを図り、身だしなみや言動等も注意する。	休学者を除き、出席率75%以上	B	B	B
		学年だより等を通じ、生徒や学校の様子を伝え、確実に保護者に情報や連絡が伝わるよう努める。	学年だよりを年3回発行する。	B		
2年次	学校が安心して過ごせる場だと感じ、のびのびと学校生活をおくることができる。  コミュニケーション能力をのびし、自己表現できるようにする。	普段から声かけをおこなうなどコミュニケーションをはかり、小さなことから指導していく。	60%の生徒が学校生活を安心して過ごしている。	B	B	B
		LHRやキャリア教育、その他の活動を通し、自己表現の機会を作る。	60%の生徒が活動に満足し、向上したと答える。	A		
3・4年次	卒業後の進路実現のために、進路意識を向上させる  本年度卒業予定の生徒の卒業計画を達成させる。	職業体験（ジョブ・シャドウイング）や小論文学習を通して、卒業後の進路選択を明確に意識させる。	60%の生徒が、卒業後の進路に向けて積極的に活動している実感がもてる。	B	B	B
		各教科、家庭との連携を図りながら、単位取得に向けた指導を行う。	卒業率75%以上	B		
国語	学習意欲の向上を図る	生徒の学習意欲を喚起するような取り組みやわかりやすい教材プリントを工夫する。	各種課題等の提出率80%以上	B	B	B
		生徒が授業の中で、自分の考えをまとめられるような発問のしかたや、授業展開を工夫する。	80%の生徒が授業者の問いかけに反応できる。	B		
地歴公民	基礎学力の向上	補助プリントや資料、視聴覚教材などを利用	理解できたという生徒が70%以上			

	をはかる。	し、わかりやすい授業をめざす。	となる。	B	B	B
		学校設定科目での授業内容、実践方法を工夫し、興味を引く授業を目指す。	毎回自主教材を作成する。	A	A	
数 学	生徒1人1人が意欲的に数学の学に取り組むようにする。	習熟度別少人数授業の利点を生かして、個々の生徒に適した教材を提供し、興味の喚起や課題完成時の達成感を味わわせる指導を実践する。	授業アンケートにおける生徒の満足度が、60%を上回る。	B	B	B
理科	自ら積極的に学習に取り組む態度を培う。基礎・基本の定着を図る。	開講科目のシラバスをもとに、わかりやすい補助教材などを用いて、基礎学力の定着を図る。	考查を受験した生徒のうち60%が欠点を取らない。	B	B	B
		実験や演示実験、体験的学習の工夫をすすめることで、生徒の興味関心を引き出す授業の実践を行う。	生徒の60%が興味関心を持ち授業に取り組んでいる。	B		
英語	基礎学力の定着を図る。	「翠江生の英単語850」という単語帳をもとに月1回単語テストを行う中で、生徒が苦手意識を克服し、やる気を出し、達成感を得られるようにする。	09年次全体の平均点9点(20点中)を目指す。	B	B	B
保健体育	体力増進と基礎学力の醸成によりスポーツに必要な運動能力の伸長を図る。	生徒の体力、学力を踏まえた指導を心掛ける。	学校体操65%以上の習得	B	B	B
芸術	芸術を通して心を自由に表現できるよう授業を工夫し、個々の感性を高める。	授業に取り組みやすくするため、教材を工夫し、基礎技術の定着を図る。	基礎技術の定着率60%以上。	B	B	B
		自己表現の場として校内での作品発表を行い、意識・関心を高める。	校内での作品展示70%以上。	B		
家庭	基本的な生活習慣を身につけさせ、自立の準備を図る	人の一生の中で自立とは何か、家族とは何かについて考えを深められるよう発問の仕方や授業展開を工夫する。	自立や家族について自分の考えを70%がもてるようにする。	B	B	B
		生活の現状を見つめ、実生活に活かせる能力を身につけさせる。	実験実習など体験的な授業を実践する。	B		
	食生活における健康と安全について実習を通じて理解させる。	身近にある素材を使い、健康や安全について考えながら調理実習をする。 実習を多く重ねることにより、生徒が実生活に活かせる意欲や能力を身につけさせる。	大部分の生徒が調理器具を安全に使えるようにする。 年間授業時数の10分の5以上を実習にあてる。	B A		
商業	将来のキャリアリストを目指した基礎基本の徹底を図る。	授業の中で、検定受験に対する意欲づけを日常的に図る。 きめ細かい指導と各種検定前の補習を実施する	受験者の25%(延べ人数)以上が補講へ出席すること。	C	B	B
		・資格取得のための指導の徹底を図る。そのためにも分る授業を創造する教材の工夫を心がけ、授業の効率を高める。 ・生徒一人一人をしっかり把握し、個に応じた指導を行い、授業の効率を高める。	各種検定合格者を受講者の35%以上を目指す。	B		
情報	社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させながら情報活用能力の育成を図る。	・情報モラルを踏まえた適切な判断が出来るようにする。 ・PCの活用を基に情報を受信・発信する能力を高める。	受講者の80%以上がPCを活用し、プレゼンが出来る。	B	B	B
<p>今年度の活動は、各分掌・学年・教科ともそれぞれの目標に照らして、一定の成果が上がった。しかし、下記の点で課題が残っている。</p> <p>生徒指導では、「My Life」発行は毎月1回の他、号外を3回発行した。運転実技講習会の出席率は補講を含めて88%であった。係による登下校時と昼休みの立ち番、駐輪場の見回りの従事率は、生徒指導係会議と重なるものを除いて94%であった。問題行動による指導対象生徒は大幅に増加した。問題行動を減少させ、授業を含め落ち着いた学校生活を送られるよう早期に取り組む必要がある。</p> <p>渉外では、郵送や保護者面談時に案内文書を配るなど、配付方法を工夫したが、評議員会および諸活動の参加率は昨年よりも減少した。内容も含めて参加者増となる取り組みが必要である</p> <p>キャリアガイダンス部では、①進路全般として、進路を決定するまでに時間がかかる生徒が多いため、卒業年次はもちろん、各年次との連携が今年度以上に必要である。②特別支援関係として、療育手帳を持っている生徒や療育手帳を持ってそうな生徒に対する進路保証をどう進めていくかが今後の大きな課題となる。なお、今年度以上に『らいふあっぷ』、『ハローワーク新潟』、『障がい者職業センター』等外部支援機関との連携が重要となる。</p>				総合評価		
				B		

